

[成果情報名] 国産飼料を給与して生産した牛乳に対する消費者の価格受容範囲

[要約] 国産の自給飼料を給与して生産した牛乳を想定し、この製品に対する消費者の価格受容範囲を推定したところ 203 ～ 241 円/L で妥当価格は 226 円/L となった。また鮮度や製造方法などの質的要因を重視する消費者に限れば、257 円/L 程度の価格で販売できる可能性がある。

[キーワード] 飼料作物、牛乳、国産自給飼料、価格感度測定法、マーケティング

[担当] 三重科技セ・農業研究部・経営植物工学グループ

[連絡先] 電話 0598-42-6356、電子メール koji@mate.pref.mie.jp

[区分] 関東東海北陸農業・経営

[分類] 技術・参考

[背景・ねらい]

BSE や口蹄疫など輸入飼料に対する消費者の不安を招く事態が発生するなか、安心な国産飼料による畜産物生産への消費者ニーズが高まりつつある。そこで、全ての飼料を国産自給飼料を給与して生産した牛乳を想定し、この製品に対する消費者の価格ニーズを明らかにすることにより、今後の消費者要求に対応した畜産製品開発のための基礎資料とする。

[成果の内容・特徴]

1. 「国産自給飼料を給与して生産した牛乳」の消費者が受容する価格帯は、価格感度測定法により推定したところ 203 ～ 241 円/L となる。また、受容価格帯のうち消費者が高いとも安いとも思わない妥当価格は 226 円/L となる (図 1)。なお、普段購入している牛乳では 174 ～ 202 円/L の受容価格範囲で、妥当価格は 189 円となる。
2. 牛乳購入時に重要視する要因の比較では、「鮮度」を最も重要視し、次に「エサの種類」、「殺菌方法」、「価格」を同程度で重視している (図 2)。
3. 牛乳購入時に重要視する要因の重要度についてクラスター分析により消費者を 3 分類し、各クラスターごとに「国産自給飼料を給与して生産した牛乳」に対する受容価格帯を推定すると、クラスター 1 は品質・製造方法などの質的要因重視派で国産飼料による牛乳の受容価格範囲は 220 ～ 275 円と最も高値で幅は 55 円と広い。構成割合は 13.5 % と少ない。クラスター 2 は低価格重視派で構成割合は 52% を占める。価格受容範囲は 196 ～ 228 円と低く幅も 32 円と狭い。クラスター 3 は比較的ブランドを重視するが平均的なクラスターで、価格受容範囲は 207 ～ 251 円となる (表 1)。
4. クラスターごとに価格のポイントは異なることから、国産自給飼料を給与して生産した牛乳のマーケティングは、クラスター 2 (低価格重視派) をターゲットから外し、その他のクラスターのニーズに対応したマーケティングを行えば、概ね 234 ～ 257 円の妥当価格で販売できる可能性がある。

[成果の活用面・留意点]

1. 結果は三重県内の畜産交流施設の訪問者に対する調査に基づくものであるが、安全志向の消費者要求に対応した畜産製品開発の際に参考とできる。
2. 本調査の評価対象製品は、与えるすべての飼料を国産飼料として生産した牛乳とした。しかし回答者に国産飼料についての情報は何も与えていないことから、既存の牛乳より高い受容価格となったのは飼料の安心に対する価値と考えられる。このことから、輸入飼料の場合でも飼料の安全性の情報を製品とともに公開・保証することで同程度の受容価格の製品になると考える。

[具体的データ]

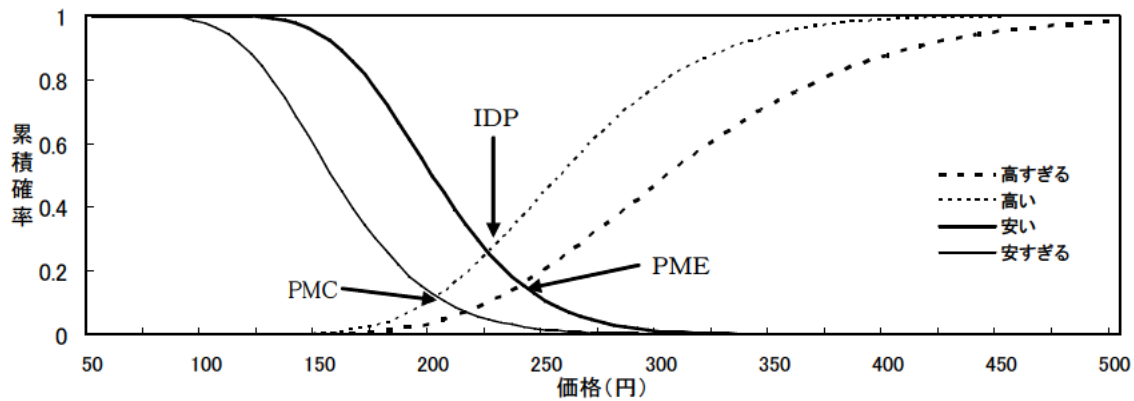


図1 国産飼料により生産した牛乳の受容価格帯

- 注1) 調査対象は「ふれあい牧場」(三重県四日市市)に訪れた599名で、アンケートによる調査を依頼し、有効回答213(有効回答率35.6%)を用いた。回答者の94%が女性で平均年齢は38.6歳、1週間の牛乳消費量は1.03L/人であった。
- 注2) 各曲線は「高すぎて買わない価格」、「高いと感じ始める価格」、「安いと感じ始める価格」、「安すぎて品質が不安な価格」のそれぞれのデータの対数正規累積分布関数値による。価格感度測定法では回答数の累積パーセンテージを図示するが、この場合階段状になり交点の位置が不安定になることから、回答価格の正規性を仮定し対数正規累積分布を当てはめた。
- 注3) PMC:「安すぎる」と「安くない」が同数の点で安さの限界点
 PME:「高すぎる」と「高くない」が同数の点で高さの限界点
 IDP:「高くない」と「安くない」が同数の点であることから「妥当価格」とした
 受容価格帯はPMCとPMEの範囲

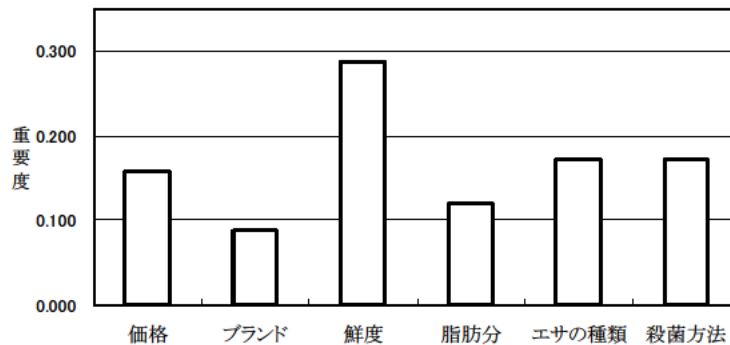


図2 牛乳購入時に重要視する要因の相対重要度

注) 重要度は各要因を7段階で一対比較し、AHPにおける重要度計算に準じて回答者個々に算出したウエイトの平均値。ただし $C_i < 0.15$ のもの $n=134$ 。

表1 各クラスターの特徴と国産飼料で生産した牛乳に対する価格受容範囲

クラスター	構成割合	牛乳購入時の要因重視の特徴	受容価格帯	妥当価格
1 (質的要因重視派)	13.5%	鮮度を最も重視し、エサの種類や殺菌方法も重視する。普段購入している牛乳の平均価格は253円と高い。	220-275円	257円
2 (低価格重視派)	52.4%	価格を重視し、脂肪分も比較的重視する。普段購入している牛乳の平均価格も165円と最も安い。	196-228円	213円
3 (平均的クラスター)	34.1%	ブランドを比較的重視するが平均的なクラスター。	207-251円	234円

[その他]

研究課題名：飼料イネの生産・給与技術のシステム化と地域営農モデルの策定

予算区分：地域基幹

研究期間：2002～2003年度

研究担当者：糀谷 齊、山本泰也、乾 清人